平成２２年度第３６回
岡山市学童陸上運動記録会開催！

平成２２年１１月２０日（土）kanko（カンコー）スタジアムを会場に、本年度の岡山市学童陸上運動記録会が開催されました。

１００ｍ走、６０ｍハードル走、走り高跳び、走り幅跳び、ソフトボール投げ、４×１００ｍリレーの計６種目に、市内８７校から７８２人が参加し、自己の記録更新や自分の限界への挑戦を目標にがんばりました。

昨年度は新型インフルエンザが猛威を振るい、大会当日、残念ながら参加することができなかった子どもたちがたくさんいましたが、本年度は、インフルエンザの影響もなく、雲一つない晴天のもと、例年に比べとても暖かく、ほとんど風もないというベストコンディションの中で開催することができました。そのおかげか、走り高跳びや６０ｍハードル走、４×１００ｍリレーでは大会新記録やタイ記録が生まれました。

全ての子どもたちのがんばりに拍手です。

（写真を中心に紹介します。）

＜開会式＞

西村洋子岡山市小学校体育連盟会長の開会のご挨拶に引き続き、山脇教育長から激励の言葉をいただきました。

「中国地方を代表するkankoスタジアムでの経験は最高の宝物になること」「体力は勉強や生活を支える大切な要素であること」「いつの日か岡山を代表して活躍するスポーツマンとしてkankoスタジアムに戻ってきてほしいこと」などをお話しいただきました。

国旗は岡山市立中山小学校、小体連旗は岡山市立御南小学校の代表の児童が掲揚しました。青空と紅葉を背景に会場の注目を集めました。

参加児童を代表して選手宣誓をしたのは岡山市立伊島小学校の二人。言葉一つ一つを大切にした素晴らしい選手宣誓でした。声の大きさや、間合いなど聞いている会場全ての人が引き込まれていきました。
終わった後、会場から大きな拍手が送られました。

＜競技の様子＞

緊張のスタート。会場が一瞬静まりかえります。この緊張を経験することも、子どもたちにとっては「宝物」になるのでしょうね。

ハードルは走るのが速いだけではなく、「ハードリング」という技術が勝負のカギを握ります。練習の成果を発揮すべく、ゴールを目指します。今年は女子の部で大会新記録が出ました。

走り高跳びはタイミングがポイント。バーと自分の距離を感じつつ、助走をします。クリアしたときの感動は忘れられません。天候も味方してくれたのか、男子で大会新記録、女子で大会タイ記録がでました。

男子走り幅跳びの大会記録は５２３cm。新記録を目指して勢いよく踏み切ります。役員の先生も真剣です。

青い芝、澄みきった空に円弧を描くソフトボール。狭いサークルを上手に使い、ありったけの力で投げます。小学生といえども男子は６０mを超えます。

全員が一生懸命「走り」「跳び」「投げ」ました。自己ベストを更新することも大切ですが、やはり、「ベストを尽くす」ことが、子どもたちにとっては「宝物」になるのでしょうね。

＜本年度出た大会新記録及びタイ記録＞

【新】	男子走り高跳び	１４７cm	遠藤良明さん（岡山市立岡山中央小学校）
【新】	女子６０mハードル	９秒８４	鹿本真尋さん（岡山市立吉備小学校）
【新】	女子４×１００mリレー	５５秒３８	岡山市立芥子山小学校チーム
【タイ】	女子走り高跳び	１３８cm	大森菜桜子さん（岡山市立野谷小学校）

＜陸上教室＞

本年度も大学や高等学校、社会人で指導されていたり現役で競技されていたりする方を講師としてお招きし、陸上教室を開催しました。 短い時間ではありますが、技術的なポイントや練習の仕方など教えていただきました。今回の講師の中には、小学校生の時に走り幅跳びで本大会の大会記録をだし、いまだに破られていない先輩もおられました。子どもたちの前でデモンストレーションをしていただきましたが、ジャンプのあまりの高さに見学をしていた子どもたちから「おー」っという感動の声があがりました。

（講師紹介）

（走り幅跳びのデモンストレーション）

（走り高跳びの助走のアドバイス）

（ハードリングの技術ポイント指導）

こんな場面も…

＜学校応援の横断幕＞

俄然やる気がアップします。

＜気持ちいい芝生＞

思わずはしゃぎたくなります。

今年も子どもたちのがんばりに感動した記録会。特に走り高跳びの記録更新に向けたジャンプの場面は、会場が一つになりました。「大会記録に挑戦する模様です」というアナウンス。スタンドから選手の名前を声を合わせて叫ぶ子ども達（他校の子どもだったそうです）。助走に入ると静まりかえる会場。バーを越えたときの大歓声と拍手。新記録を出した選手はもちろんですが、会場全体が感動した瞬間でした。この感動がきっと子どもたちの心を育てていくのだと確信しました。

いつの日にかまた輝いている子どもたちに「カンスタ」で会いたいなあ…。